

令和7年度

幼稚園だより 6月号



文京区立千駄木幼稚園

「楽しい」「おもしろい」を共に感じて

副園長 矢澤 弘美

各学年の様子を見ると、入園・進級当初より、子どもたちの動きが活発になってきたことを感じます。それとともに、遊びの中で、自分の思い付いたこと、考えたことを動きや言葉に表して楽しんでいる場面も多く見掛けます。

ある日、子どもたちが、咲き終わって落ちた花を水と一緒に透明なビニール袋に入れていました。手で揉み込み、色が滲み出てくるかどうかを試しているようでした。

その中で、花と水を入れたビニール袋を自分の額の高さに掲げ、じっと見つめている子がいました。その日の天気は薄曇りで、雲の切れ間から、太陽の光が少し差し込んでいました。その子は度々自分の体の向きを変えながら、ビニール袋を見続けていました。私も興味が湧き、ビニール袋に花と水を入れ、少し離れたところで同じようにビニール袋を掲げてみました。水のゆらめき加減、周りの景色の見え方など、じっくり見ていると、何だか不思議な心地よさがありました。少しして、私の姿に気付いたその子は、隣に来て、また、ビニール袋を見つめました。しばらくして、私と視線が合うと、にこっと笑ってまたビニール袋に視線を戻し、「何か、おもしろいでしょ」と言いました。私が「うん。何か、おもしろい」と答えると、その子は、また、にこっと笑って、2つめを作りに行きました。水の量、花の数などを1つめとは変えようと、自分なりによく考えながら作っていました。

本園では、毎年、園内研究に取り組んでいます。令和7年度の研究主題は、「楽しい おもしろい につながる援助の工夫 ～幼児の表現する姿を窓口に～」です。

幼児期の子どもたちは、主体的に遊ぶことで様々な学びを得ていきます。遊びが楽しく、おもしろければ、子どもたちはより意欲的に遊びに取り組み、その分、学びも深まっていきます。

子どもたちが感じる「楽しい」「おもしろい」という気持ちは、そこに寄り添う人がいることで、さらに高まります。私たち教師は、子どもたちの動き、言葉、作ったものなど様々な表現から、「楽しい」「おもしろい」と心を動かしていることを理解し、共に感じられる存在でありたいと思います。



【水を使って、試してみよう】
年中組 年長組